

## 日本生理学会平成13年度第1回常任幹事会議事録

日 時 平成13年3月28日(水)午後1時~5時

会 場 京大会館

出席者 青木 藩, 本間研一, 小澤静司, 貴邑富久子, 工藤典雄, 坂東武彦, 植村慶一, 金子章道, 栗原 敏, 本郷利憲, 本間生夫, 御子柴克彦, 宮崎俊一, 小野武年, 岡田泰伸, 久場健司, 曾我部正博, 西野仁雄, 大森治紀, 津本忠治, 福田 淳, 松尾 理, 菅 弘之, 瀬山一正, 前田信治, 有田 眞, 堀 哲郎, 山下 博, 佐久間康夫(教育委員会委員長), 川口三郎(当番幹事), 野間昭典(当番幹事) 平野丈夫(当番幹事)

欠席者 丹治 順, 土居勝彦, 中島祥夫

議 長 野間昭典(当番幹事)

### < 報告 >

1. 庶務報告(本郷庶務幹事): 会員について平成12年11月~平成13年3月期間の入会209名, 退会66名, 自然消滅129名, 現在の会員数3,465名(一般会員3,245名, 特別会員32名, 名誉会員10名,)であることが報告された。日産科学振興財団学術研究助成奨励研究に和田佳郎氏(奈良県立医大)が採択され, 山田科学振興財団研究援助に彼末一之氏(大阪大・保健学科), 神谷温之氏(神戸大・医)を推薦したことが報告された。本年逝去された評議員木村英一氏, 評議員佐藤豊彦氏, 評議員武重千冬氏への追悼の辞が述べられた。特許庁へ特許法第30条の規定に基づく学術団体指定申請書を提出し, 京都大会から適用されることが報告された。後援・協賛として神奈川科学アカデミー教育講座(2001. 2~3)協賛, 第22回バイオメカニズム学術講演会(2001. 11. 23~24)協賛, 日本膜学会第23年会(2001. 5. 17~18)協賛の3件が報告された。

2. 会計報告(栗原会計幹事): 平成12年度会計決算報告が評議員会・総会議事録の付表1のようになされた。賛助会員39社(43口)が報告された。監査が植村教授および宮崎教授によりなされ, 植村教授から会計が正しく行われたことを確認した旨の報告がなされた。平成12年度会計決算は承認された。

3. 日本生理学雑誌編集報告(金子編集幹事): 鶴

岡印刷から杏林舎に変更した, 鶴岡印刷には長年の協力に対して庶務幹事名の感謝状を贈った, 杏林舎は東京の北区にある会社であり, 生理学会事務室とも近いので, 緊密な連携を保って予定どおり発行していきたいとの報告があった。さらにホームページ検討委員会(入来委員長)を編集委員会の小委員会として作り生理学会のホームページのあり方, 運営について, 議論を進めていただくことにした, 論文表題集は生理学会のメンバーが行っている研究が外から見えるようにするために必要ではあるが, 冊子形態で発行することの是非と, どのような形でデータベース化できるかを今後検討することで編集委員会の意見がまとまった旨報告された。

4. JJP 編集委員会報告(菅委員長): オンライン編集委員会, 過去1年間の受け付け原稿(総数は135編)の処理状況および入澤記念JJP優秀論文賞推薦論文2件が報告された。入賞論文は, 要素・ミクロ・分析的研究論文ではK. Dezaki, T. Tsumura, E. Maeno & Y. Okada: Receptor-mediated facilitation of cell volume regulation by swelling-induced ATP release in human epithelial cells. Vol 50. 2, 235-241, 2000. システム・マクロ・統合的研究論文ではS.Uchida, F. Kagitani, A. Suzuki & Y. Aikawa: Effect of acupuncture-like stimulation on cortical blood flow in anesthetized rats. Vol 50. 5, 495-507, 2000。さらにOn-

Line化の進捗状況が報告され、49巻6号以降、全論文を図表を含めてPDF、パブリック・ドメイン・ファイルで無料で公開中であることと、今年の末頃をめどに有料閲覧に切り換えたい旨報告された。JJPのPRパンフレットの必要性が提案され編集委員会で討議の結果IUPSに間に合うように作るようになった旨報告された。編集委員の半数改選および各編集委員が担当分野の査読協力者（国内2名、国外1名）を推薦し編集委員会で承認することになっている旨を確認したと報告された。JJP発行部数は平成11年度の1,282部に対して平成12年度は1,247部であること、会計的には黒字であることが報告された。さらに、生理学会英文抄録集の発行が遅れているが、技術的には原稿受領から3ヶ月程度で発行できることが報告され、今後は当番幹事が原稿を学会誌刊行センターへ送ったときその旨をJJP編集委員長に知らせること、その後はJJP編集委員会が発行までの責任を持つことが確認された。

5. **評議員の選考（宮崎委員長）**：平成13年3月22日に評議員選考委員会を開催し28名の申請者のうち26名を推薦することになった旨報告された。

6. **教育委員会報告（佐久間委員長）**：平成13年1月27日に教育委員会および将来計画委員会を合同で開催し、コア・カリキュラム試案の性格、成立に至った経緯、あるいは目指すものについて説明があったこと、この試案に対し教育委員会として提言したことが報告された。来年の広島大会ではさまざまな教育改革の中で生まれていろいろ成果、問題点などの中間的な評価を行ってみたい旨の報告があった。MCQの問題集がそろそろ改訂する時期であることが報告された。

7. **学術・研究委員会報告（小沢委員長）**：従来の研究費委員会が学術・研究委員会に改組されたことに伴い、これまでの研究費委員会委員に次期当番幹事1名（瀬山一正幹事）、将来計画委員長（松尾理委員長）、教育委員会委員1名（松田博子委員）、日本学術会議生理研連委員1名（板東武彦委員）、庶務幹事（はじめの2年間）および委員長が推薦する者若干名として将来計画委員会から久保委員、IUPS学術委員

会委員長の倉智委員を加えて新委員会を発足させ、4月から活動して行く旨が報告された。さらに広島大会の第1回実行委員会に小沢委員長、大森委員、将来計画委員会から高木委員が参加し、実行委員会との間で話し合いを持ったことが報告された。科学研究費補助金細目のキーワードの変更に関連して、学術審議会の科学研究費分科会の分科細目改正検討委員会の医学系ワーキンググループの委員から連絡があり、生理学一般と環境生理学に関しては提案した変更が認められそうであることが報告された。神経・筋肉生理学に関しては、神経科学が属する複合領域はこれから審議されるらしいことと筋肉生理学の取り扱いに関して問題があることが報告された。

8. **動物実験に関する委員会報告（福田委員長代理）**：環境庁の第9次鳥獣保護事業計画に対する意見聴取に関しては生理学会としての意見を提出したこと、これに関する記事を日誌に掲載することが報告された。さらに、不良業者を介した野性サルの手が問題化され幾つかの大学ではサルの手が非常に困難になっていることが報告され、単に生理学会だけの問題ではなくて、臨床も含めて医学会全体の問題として神経科学会、あるいは日本霊長類学会、などとも歩調を合わせて研究用サルが安定して供給される方策を検討していく必要性が説明された。長期的には恒久的な供給ルートとしてサルの繁殖コロニーを作ることを要望するべきとしても、短期的には野性サル、あるいは野猿公園のサルを合法的に安定して供給できるルートを確保することは必要であり、できるだけ緊急に進めていくべきであるとの議論がなされた。

9. **将来計画委員会報告（松尾委員長）**：生理学会京都大会でチュートリアル形式の生理学教育を考える懇談会を開催することが報告された。

10. **賞選考委員会報告（堀委員長）**：平成12年12月19日に奨励賞選考委員会を開催し受賞者を次の3名、すなわち磯村宣和（東京都神経研・統合生理）、川田 徹（国立循環器病センター・循環動態機能）、増田正雄（東京都老人研・臨床生理）に決めたことが報告された。任期終了に伴う委員改選に関して、

細目「生理学一般」の審査委員が6名に増員されたが委員は3細目いずれからも3名ずつとする，そのため「生理学一般」の委員は年長順の3名とする，という案が諮られ，承認された。

11. **日本学術会議生理研連委員会報告（本郷麻務幹事）**：シンポジウム開催および科学研究費制度に関するワーキンググループをそれぞれ作り，シンポジウムでは統合の問題を中心としてシンポジウムを開催すること，科学研究費キーワードとしては小沢委員長が提案されたものと同じものを生理研連としても提出したことが報告された。

12. **日本医学会評議員報告（有田評議員）**：平成13年2月27日日本医師会館で開かれ，平成15年3月29日から4月7日まで開かれる日本医学会総会（福岡）について報告された。基本理念は「人間科学，日本から世界へ」，サブタイトルとして「21世紀をひらく医学と医療・信頼と豊かさを求めて」とすることなど，さらに日本医学会特別シンポジウム「ヒトゲノム・21世紀のポストゲノム戦略」が，北海道医療大学学長の広重先生と北大・医の本間教授の世話で9月6日から7日まで札幌で行われること。日本医師会医学賞，医学研究助成費の平成13年度分が5月上旬に各分科会長及び大学医学部長等へ推薦状依頼がいく旨報告された。さらに日本医学会に日本臨床薬理学会の新規加盟が評議員会で承認された旨報告された。

13. **IUPS大会招致検討委員会報告（金子国際交流委員長）**：2009年にIUPS大会を招致する文書（資料配付）をIUPS事務局に提出したことが報告された。開催地は京都，統一テーマは“Function of Life Elements and Integration”とし，国内が2,000名から2,500名，海外が1,000名から1,500名の参加者を予想して，4,000名規模で準備をすることが報告された。さらに，招致検討委員会は解散し，組織委員会としては名誉会長を江橋節郎名誉教授，伊藤正男名誉教授とし，会長を金子章道幹事とすること，および3つの準備委員会，すなわち総務委員会（岡田泰伸委員長），学術委員会（倉智嘉久委員長），財務委員会（栗原敏委員長）を組織して，招致の仕事に当たる事が報告された。さらに，IUPS事務局D.ノーブル

氏から連絡があり4項目の追加資料の提出が求められたことが報告された。さらに栗原幹事から財政面での報告があり，最近開催されたいくつかの国際学会を検討した結果開催には2億円程度が必要であり，会費収入1億2千万円に対して8000万円程度は寄付を集める必要があることが報告された。上記3つの準備委員会を発足させることが承認された。

14. **国際生理科学連合IUPSおよびアジア大洋州生理科学連合FAOPS報告（金子理事）**：第34回IUPSがニュージーランドで8月26日から9月1日まで開催されることと，8月26日の総会代議員会において投票により2009年の第36回IUPS大会の開催地が決まることが報告された。FAOPSについて，我国からの拠金250万円によりFAOPS加盟国の若手がIUPS大会に参加するのを援助する作業が進んでいること，ニュースレターVol 9, No.2が発行されたことが報告された。

15. **第79回日本生理学会大会の準備状況報告（瀨山当番幹事）**：大会案内第1報の説明がなされた。

16. **第78回日本生理学会大会報告（川口当番幹事）**：京都大会の登録者数は1,646名，演題数は1,035題であった旨報告された。

#### < 議題 >

1. 前回の議事録が示され承認された。

2. 栗原会計幹事から平成13年度予算案が示され承認された。平成13年度の予算案（評議員会・総会議事録の付表2と同じ）が説明され，常任幹事会での承認事項とし，総会に付議することにした。

3. 評議員候補が推薦され承認された。

4. JJP編集委員会菅委員長からJJP編集委員候補として小西真人（東京医大），西野仁雄（名市大），河原克雅（北里大），本間生夫（昭和大），佐久間康夫（日本医大），葛西道生（生物物理，再任）が推薦され承認された。

5. 学術・研究委員会小沢委員長から科学研究費補助金審査委員候補者第1次選挙の日程を早めることが提案され承認された。複合領域の神経科学の細目としての神経筋肉生理学について，特に筋肉生理学に関しては神経科学での位置づけあるいは生理学一般

への移動も含めて議論された。なお、病態生理学という細目、発達・成長・再生・老化などのキーワードの必要性も議論された。科学研究費補助金のキーワードについても議論し、今後も検討課題として学術・研究委員会で議論することを了承した。

6. 「生理学領域における動物実験に関する基本指針（改定案）」が示され、一部修正の後承認された。また、サルの繁殖コロニーを作ることを関係機関に要望することとし、要望書の原案作成を動物実験委員会に一任することが承認された。中島祥夫委員（千葉大・医）から福田淳委員（大阪大・医）への委員長の交代が本郷庶務幹事から提案され承認された。

7. 常任幹事の任期について本郷庶務幹事から提案があり、修正の後承認された。この結果、常任幹事の1任期は4年とする、1任期の後2年間は被選挙権を持たない、2年ごとに半数改選する、という案が承認された。さらに、常任幹事に特別枠を設ける事が

承認された。特別枠で選出される常任幹事はその時々幹事会が必要に応じて選出するものであり、選出に際しては特別な条件を設けないことが了解された。平成14年春に予定されている常任幹事の選挙においては過渡的措置として、得票数の上位のものを1任期4年とし下位のものを1任期2年とすること、現常任幹事のうち2期以上継続して就任したものは被選挙権を持たないこと、が承認された。

8. 第34回IUPS大会総会代議員について、6名の代議員の選定は3専任幹事に一任することが承認された。

9. 第80回大会開催地について本郷庶務幹事より説明があり福岡大学の今永一成教授・河田溥教授を当番幹事として開催することが了承された。

以上